

G:ガバナンス

【コーポレート・ガバナンス】

パイオラックスグループは、コーポレート・ガバナンスを経営の優先課題と位置付け、法令や倫理を遵守するとともに、取締役会を中心に重要な企業戦略の策定・実行、内部統制システムやリスク管理体制の適切な整備を実践していくことで、公正で透明度の高い企業経営と持続的な成長・発展を図っています。

また、投資家をはじめとするステークホルダーに対し、財務情報だけでなく非財務情報も含めて適時適切な情報開示と対話を行い、信頼関係の構築に取り組んでいます。

＜コーポレート・ガバナンス体制＞

パイオラックスグループは、中長期的な企業価値の向上を目指すため、コーポレート・ガバナンス体制の強化に努めています。2016年の監査等委員会設置会社への移行後、取締役への株式報酬制度の導入(2017年)、独立社外取締役の3分の1以上の選任(2018年)、指名・報酬諮問委員会の設置(2019年)、女性取締役の就任(2020年)、プライム市場の要件に適合したより高度なコーポレートガバナンス・コードへの対応(2021年)を実施してきました。

取締役会

重要な経営方針、経営目標、経営戦略などの意思決定を行います。構成は、代表取締役社長を議長とし、取締役10名(うち、社外4名)です。

監査等委員会

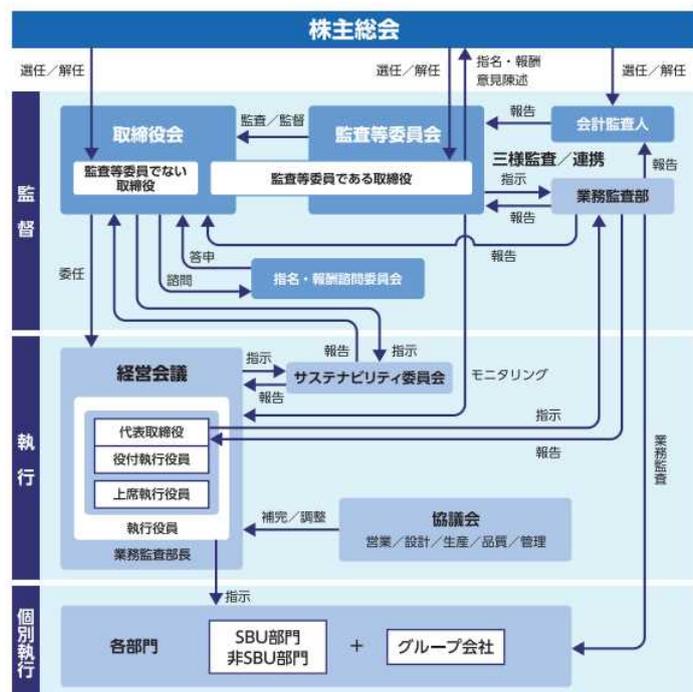
取締役の職務執行、その他グループ会社経営全般の職務執行状況を監査します。構成は、監査等委員会委員長を議長とし、監査等委員である取締役3名(常勤1名、非常勤2名)です。

指名・報酬諮問委員会

取締役の選解任、報酬の公正な決定の観点から、取締役会の任意の諮問機関として設置しています。構成は、代表取締役専務を委員長とし、取締役6名(うち、社外4名)です。

経営会議

取締役会における経営方針に基づき、具体的な業務執行のために必要な意思決定を行います。構成は、代表取締役専務を議長とし、役付執行役員・上席執行役員です。



コーポレート・ガバナンス概要

機関設計の形態	監査等委員会設置会社
監査等委員でない取締役の人数 (うち、独立社外取締役の人数)	7名(2名)
監査等委員である取締役の人数 (うち、独立社外取締役の人数)	3名(2名)
取締役の合計人数 (うち、独立社外取締役の人数)	10名(4名)
独立社外取締役比率	40%
女性取締役比率	20%
監査等委員でない取締役の任期	1年
監査等委員である取締役の任期	2年
執行役員制度の採用	有
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

サステナビリティへの対応は重要な経営課題であり、取り組みを加速させるために、2021年12月にサステナビリティ委員会を設置し、サステナビリティ方針を制定しました。サステナビリティ委員会は、代表取締役専務を委員長とし、委員は取締役を中心に構成しています。サステナビリティおよびESG経営に関する方針やマテリアリティの策定、目標の設定と進捗状況のモニタリング、TCFDに基づくリスクと機会の特定などを実施しています。

リンク：サステナビリティ方針

<取締役一覧および活動状況>

地位	氏名	性別	在任期間 (2022年6月株主 総会終結時)	出席状況 (2021年度)	
				取締役会	監査等委員会
代表取締役社長	島津 幸彦	男性	17年	19/19回	—
代表取締役専務	永峯 道男	男性	14年	19/19回	—
取締役	鈴木 徹	男性	8年	19/19回	—
取締役	増田 茂	男性	1年10ヶ月	19/19回	—
取締役	梶 雅昭	男性	— ※	—	—
取締役	落合 宏行 社外・独立	男性	— ※	—	—
取締役	赤羽 真紀子 社外・独立	女性	— ※	—	—
取締役 常勤監査等委員	石川 元一	男性	— ※	—	—
取締役 監査等委員	浅野 謙一 社外・独立	男性	6年	19/19回	12/12回
取締役 監査等委員	小宮山 榮 社外・独立	女性	1年10ヶ月	19/19回	12/12回

※2022年6月株主総会にて選任および就任

<取締役のスキルマトリックス>

当社における地位	氏名	企業経営	営業/ マーケティング	技術・ 開発	製造・ 品質	財務・ 会計	法務・ リスクマネジメント	グローバル ビジネス	ESG/サス テナビリティ	DX/IT	イノベーション/ 新規事業
代表取締役社長	島津 幸彦	●	●					●	●		●
代表取締役専務	永峯 道男	●				●			●	●	
取締役	鈴木 徹	●	●		●			●			
取締役	増田 茂			●	●					●	
取締役	梶 雅昭	●				●		●		●	
社外取締役	落合 宏行	●			●			●	●		
社外取締役	赤羽 真紀子	●							●		
取締役 常勤監査等委員	石川 元一	●				●		●			
社外取締役 監査等委員	浅野 謙一						●				
社外取締役 監査等委員	小宮山 榮					●					

<コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況>

パイオラックスは、定例取締役会を月1回開催し、経営の基本方針および重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督を行っています。また、執行役員制度を採用するとともに、取締役会の業務執行権限の一部を経営会議に委譲し、会社の意思決定の迅速化を図っています。取締役会と経営会議で経営情報を共有し、業務運営の方針徹底と経営リスクに対する感応度を高める体制を構築しています。

リスク管理については、各部門の責任者が自部門のリスクを把握し、規程・マニュアルを制定して運用しています。そして、業務監査部による内部監査で実施状況を確認しています。

<内部統制システム>

パイオラックスは、「内部統制システムの基本方針」および「財務報告に係る内部統制システムの整備に関する基本方針」を掲げ、会社統制の健全化・効率化・公正化に資する目的で、代表取締役社長を最高責任者とする体制の下、当社グループの内部統制システムの構築、運用および有効性評価を毎年行うなどの活動を継続しています。

具体的には、当社における内部統制システムとして、主に「全社的な内部統制」、「業務プロセスに係る内部統制」、「決算・財務報告に係る内部統制」、「ITに係る内部統制」を構築し、各統制においてチェックリストや職務分掌表、業務記述書、業務フロー図、リスク・コントロール・マトリックスなどを整備し作成して、評価を行っています。

リンク：コーポレート・ガバナンス報告書

リンク：内部統制システムの基本方針、財務報告に係る内部統制システムの整備に関する基本方針

<コーポレート・ガバナンス教育>

パイオラックスの全管理職を対象に、「内部監査の役割と支援機能」というテーマで社内研修を行いました。内部監査がどのように機能するのか、従業員がどのような意識を持って就業する必要があるかについて管理職の理解を深め、健全かつ継続的な企業としての成長に努めています。

【社外取締役インタビュー】

社外取締役の立場から、透明性の高い経営とサステナビリティのさらなる推進に貢献してまいります。

赤羽 真紀子

スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)を経て、2010年にCSRアジア(株)日本代表に就任。サステナビリティの専門家として、日本のビジネス界におけるサステナビリティやCSRの取り組みを牽引している。2022年6月、当社社外取締役に就任。



1. パイオラックスの印象を教えてください

社外取締役に就任してから、さまざまな部署の方々と接する度に感じるのが、従業員みなさんが真摯に業務に取り組まれているということです。「弾性を創造するパイオニアとして、広く産業や社会に貢献する」というビジョンが共有され、一人ひとりが誠実にそれぞれの業務に取り組む雰囲気がある会社だと思います。また、自動車産業が大きく変わろうとしている潮流や、サステナビリティが重要性を増すなどの時代背景に加え、真岡工場のリニューアルや本社ビルの建て替えなど、パイオラックスは大きな変化を迎えています。その変化を自らの進化としながら、全社が一丸となり歩み続ける瞬間に立ち会うことができることは、とても幸運なことだと感謝しています。

2. 当社のコーポレート・ガバナンスについて

コーポレート・ガバナンス(企業統治)において非常に重要なのは透明性です。社外取締役としてすべきことの一つは、業務執行から独立した立場から経営陣に対して進言することだと思います。私は新任社外取締役のため、一日でも早くパイオラックスの業務の現状を把握し、課題を認識・理解しながら、持続的成長のための経営戦略を考えられるようにならなければならないと思っています。パイオラックスの全体像をつかむことが、社外取締役の使命を全うするための土台であり、そのためのオープンな情報共有の機会を広く設けていただいているのは、大変ありがたいことです。工場見学をはじめ、各部門の概要説明会など、会社を理解するためのさまざまな機会を設定していただいていることに感謝しています。このことから、パイオラックスは透明性を高めることに努力している企業だとわかります。

3. サステナビリティの取り組みについて

世の中もサステナビリティ経営の過渡期であり、経営戦略もサステナビリティの波に対応しなければなりません。パイオラックスも気候変動への対応や女性活躍推進、人権方針の策定など、サステナビリティ推進の土台を着実に構築しています。2020年度にはマテリアリティ(重要課題)についても設定されており、概ね妥当ですが、次回の見直しではパイオラックスの長期的な成長戦略とも関連付けることを考慮したほうが良いと思います。また、海外拠点多いことから、英語での発信の質を高め、世界中のステークホルダーに情報を伝えることができるようになれば、グローバルでもさらに存在感を発揮できるようになると思います。

【リスクマネジメント】

パイオラックスでは、事業活動において想定されるリスクの未然防止に努めています。また、リスクが発生した場合でも、事業および企業への影響を最小限に抑えられるよう努めています。

<情報セキュリティ体制>

「機密流出防止ガイドライン」を策定して、機密流出のリスクに対する抜本的かつ有効的な対策を講じ、情報資産の保護に努めています。本ガイドラインに基づいて情報セキュリティを含む機密情報管理体制を改善し、会社情報を適正に管理する活動を行っています。年々高度化・巧妙化しているサイバー攻撃への対応として、社内教育とメール攻撃訓練をグローバルに行うとともに、インシデント発生時の対応効率化などを目的に、パソコンやサーバーなどのエンドポイント対策としてEDR(Endpoint Detection and Response)システムを導入・展開をしています。引き続きサイバーセキュリティリスクに対応していくことで、事業継続性の向上と経営リスクの低減に努めます。

<事業継続>

大規模災害が発生した場合に迅速に被災状況を把握して早期復旧できるよう、BCP(事業継続計画)の策定、安否確認システムや緊急連絡網の整備、備蓄品の配備などを行っています。自然災害の発生を想定したBCP全社訓練を継続的に行い、習熟度の向上に取り組んでいます。

感染症対策として、新型コロナウイルス対策委員会を設置し、当社グループ全体での継続的な情報共有と感染対策を行っています。

<災害対策の取り組み>

災害時に自らの身の安全を確保し、家族の安否確認や会社への安否報告をするための行動指針をまとめた名刺サイズの「災害対応マニュアル」を、全従業員に配布し災害に備えています。



<個人情報管理体制>

個人情報管理委員会を設置し、個人情報保護法などに対応する規程の整備・運営を行い、個人情報の取り扱いに関する体制を構築しています。

【コンプライアンス】

パイオラックスグループは、コンプライアンス全体を統括する組織として、代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています。当委員会では、法令・定款および当社グループの経営方針を遵守したコンプライアンス経営を推進する体制構築を行っています。

＜パイオラックスグループ行動規範＞

企業理念の「弾性を創造するパイオニア」の下、自動車関連や医療関連の分野で広く産業や社会に貢献する経営に努めています。事業活動を行う上で、役職員一人ひとりが良識ある企業人、社会人として高い倫理観をもって行動するための基本的な行動規範を定め、定期的な教育を行うことで、コンプライアンス意識の向上を図っています。

リンク：[パイオラックスグループ行動規範](#)

＜内部通報制度＞

コンプライアンス問題を早期に把握して対策を講じるために、グローバル対応の内部通報窓口を設置しています。役職員はコンプライアンス上の問題点を第三者が運営する社外通報窓口で匿名で通報することが可能で、通報者が保護される体制を取っています。

＜公平・公正な取引＞

市場における公正かつ自由な競争のために、「カルテル防止のためのグローバル宣言」および「カルテル防止グローバル管理規程」を定めています。事業活動を行うすべての国や地域において、競争法、独占禁止法など公正かつ自由な競争の保護にかかわる法令や規則を遵守します。

＜腐敗・贈収賄の防止＞

行動規範の下、贈収賄の未然防止のために、「贈収賄防止のためのグローバル宣言」および「贈収賄防止グローバル管理規程」を定めています。役職員は事業活動を行うすべての国や地域において、贈収賄防止や腐敗防止に関する法令や規則を遵守するとともに、公務員・民間事業者を問わず不適切な供応、金銭、贈答などの利益の供与や受領を行いません。

＜反社会的勢力の排除＞

反社会的勢力による不当要求に対し毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断します。外部の専門機関と連携して、反社会的勢力に関する情報収集や研修などによる周知徹底を図っています。